

会告

第 24 回（2021 年度）認定輸血検査技師制度試験の結果

2022 年 1 月 7 日

認定輸血検査技師制度
協議会 会長 岡崎仁
審議会 会長 加藤栄史
試験委員長 加藤栄史

新型コロナウイルス感染の蔓延により、2020 年度は一次試験（筆記試験）ならびに二次試験（実技試験）を中止した。しかし、2021 年度は、新型コロナウイルス感染が収束しない状況下でフィジカルディスタンスの確保、検温、問診など実施可能な感染対策を行い、感染陽性者が発生することなく一次試験を実施することが出来た。ただし、二次試験に関しては、試験会場を確保することが困難であったため、本年度も中止とした。また、本年度から、一次試験において、カラム凝集法、不規則抗体同定検査などの机上問題を臨床問題として追加し、これまでの知識問題と併せて、試験科目を 2 科目とした。

【1】 一次試験（筆記試験）

1. 受験申請者数：265 名

実受験者数：225 名（辞退者 5 名、欠席者 35 名）

2. 試験結果

1) 知識問題：平均点（62.4）、最高（91.1）、最低（30.0）

臨床問題：平均点（64.6）、最高（100）、最低（32.1）

合計：平均点（63.5）、最高（89.0）、最低（32.9）

必須問題：正解；117 名、52.0%

2) 合格者数：92 名（合格率 40.9%、92 名/225 名）

3. 試験内容と講評

認定輸血検査技師制度第 24 回一次試験は 2021 年 10 月 16 日（土）、ベルサーール神保町（東京）を会場に行われた。今回から試験科目を知識問題と臨床問題の 2 科目とし、試験時間を 1 科目 90 分間とした。

知識問題は、これまでと同様に、輸血医学の基礎、輸血検査ならびに臨床において必要な知識について、マークシート問題と記述問題から構成した。本年度の平均点は 62.4 点と、2019 年度の平均点 (64.4 点) と比較し、同程度の難易度であると考えられた。

本年度から追加された臨床問題に関しては、カラム凝集法の机上問題など輸血検査関連、計算問題など日常検査業務に密接に関連する問題を出題した。難易度に関しては、平均点が 64.6 点と知識問題とほぼ同程度であり、妥当であったと考える。ただし、血液型判定や可能性の高い抗体の同定などの必須問題における全問正解率が低く、52.0%に留まった。特に、問 5 (必須問題) において、「可能性の高い抗体」を「臨床的意義がある抗体」と解釈したと推察される解答が多く認められた。正確な検査結果を報告する上で、今一度、正確な用語の理解が必要であると考ええる。

他方、カラム凝集法の机上問題において、各メーカーにより陰性コントロールの対象範囲が異なることを反映したと推察される解答が認められた。即ち、カラム全体のコントロールとオモテ・RhD 検査のコントロール(ウラ検査は対象外)の 2 種類があることに起因する解答であった。問題文中にはコントロールの範囲が明記されていたが、一部の受験者が見落とししたと推察され、問 27 (必須問題) を評価対象外とした。ただし、日常診療においては、思い込みに基づく行動が最も重大な事故を起こす要因でもあり、本試験を教訓として慎重な検査業務の遂行を心がけることを望むものである。